

大阪府松原市立 恵我南小学校



宿題に、授業に、eライブラリを日常使い

恵我南小学校では、タブレットを文房具の一つとして、学校全体で日常的に利用しています。宿題や授業でeライブラリを活用している様子や先生の工夫をご紹介します。

■ 単元テスト前の時間に理解度を確認



▲レディネステストが終わった児童からeライブラリに取り組みます

算数

5年：分数のたし算、ひき算

ねらい

テスト前の理解度確認と問題演習

紙の単元テスト実施前の授業で、eライブラリを利用しました。全体で単元のポイントを確認した後、レディネステストに取り組みます。

問題を解くペースは様々で、早く終えた児童は順番に道具箱や机の横の袋からタブレットを取り出し、慣れた手つきでeライブラリのドリルを始めます。

先生の工夫

- 授業当日の朝、翌日までの期限付きで課題を出題し、翌日の単元テスト実施までに授業内で出来なかった問題を家庭でも取り組めるようにする。
- 授業の最後に翌日のテストに向けて、家で勉強するように呼び掛ける。

■ 自分で問題のレベルを選ぶことで、主体的な学びを支援



▲先生からの課題を確認して取り組みます

eライブラリのドリルは「基本・標準・挑戦」と三つの難易度になっているため、児童は自分にあった難易度を選び、真剣に問題に取り組みます。

先生から出題された問題に一方的に取り組むだけでなく、『**自分で問題を選び、解き進めることで、主体的に学習する**スタイルが本校の児童にマッチしました』と上尾先生。

基本問題からコツコツと実施する児童、挑戦問題にチャレンジする児童など、自分のペースで学習に取り組んでいます。

先生の工夫

- 学習するレベルは指定しないが、迷っている児童には「まずは標準からやってみよう」と声掛けを実施することで、児童が**自分の理解度（立ち位置）**を気づくことができる。

■ 様々な解き方と自分のペースで学習に取り組む



▲ 学習メモを使って計算式を書き込みます

答え合わせの方法は、最後にまとめて実施したり、一問ずつ確認しながら進めたりと、児童によって様々です。

間違えた問題は解説を確認し、**100点が取れるまで繰り返し学習**をしています。さらに、計算が必要な問題では、**手書きの「学習メモ」をノート代わりに利用**し、解き進めます。

ログインからドリル問題へ取り組むまで、操作に手間取る児童はおらず、それぞれが自分のペースで取り組んでいます。

他教科・他場面でのeライブラリ活用のねらい

- 計算問題や漢字の読みや語句など、教科書の問題だけでは少ないため、**限られた時間で多くの問題に取り組ませる**ことができる。
- 以前は学習する単元に関わる前学年の問題を準備することが大変だったが、eライブラリなら**簡単に前学年の教材が出題**でき、準備にかかる時間を削減することができる。

インタビュー

児童の学習に対する抵抗感が少なくなる



情報担当
上尾 健太郎 先生

eライブラリを利用してからは、課題を早く終わらせた児童が手すきの状態にならず、簡単操作で次の学習に進むことができるため、**学習への抵抗感が少なくなった**ように思います。

準備物もタブレットだけなので、**意欲的に取り組む児童が多い**です。例えば、「計算ドリルやるよ」より「eライブラリやるよ」の方が、児童は取り組みやすく、プリントを三枚配るよりも、eライブラリで課題を三つ出す方が、視覚的にも少なく感じます。**選択式がメインのところも、抵抗感が少なくなる**理由の一つです。

インタビュー

不登校児童にも同じように学習の機会を保障

本校では、「**自分も仲間も大切にしよう**」をモットーに、誰一人置いてけぼりにならないような学校運営を実施しています。

eライブラリは、学校でも家庭でも取り組めるため、**不登校の児童にも同じようにクラスの課題を出す**ことで、学校には来られなくても課題を通して、**一体感を持つ**ことができます。

また、3年生以上は毎日タブレットの持ち帰りを実施しています。eライブラリでの宿題や自主学習での利用の他に、音読やリコーダーの練習動画を撮影するなど、今までできなかった取り組みもできるようになりました。今では、**タブレットが文房具の一つ**として学校全体に定着しています。



教頭
橋本 雅之 先生

※ 本紙の情報は取材当時（2022年度）のものです。